

委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各委員会は第7回定例会において、次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会 調査報告

清水高等学校振興会について

清水高等学校振興会は、同校が平成9年4月に総合学科へ学科転換されるのに伴い、将来とも魅力ある学校であるための支援活動を行う目的で平成8年6月に設立された。

事業内容として、学校通信の発行、学校案内パンフレット等の作成、中学校訪問や学校説明会及び公開授業の開催、リカレント講座、清水中学校への出前授業などを実施している。また、進路支援として、生徒に対し資格取得のための検定料の一部補助も行っている。

今年度の入学者選抜実施状況は、160名の定員に対して170名の出願があったが、学力検査

当日の欠席や入学辞退が発生し、結果的に入学者は125名で、かろうじて4間口が維持されている。町内の中学校卒業生が同校へ入学した割合は約52%である。平成24年度卒業生の進学・就職状況は、進学希望者の進学決定率は98.5%、就職希望者の就職決定率は100%となっている。

4間口維持に向けて、同振興会としては、総合学科の利点を各学校

等に説明できる機会づくりを考えており、また、進学への対応についても習熟度に応じた授業の実施等、帯広市内校とそん色ない教育

行政としても、学校等と課題を共有しながら、町をあげての取り組みが進められることを期待する。



振興会ではPR用ポスター等を作成

課程が組まれていることをPRしていきたいと説明があった。

同校は総合学科として、5系列、約90の選択科目があり、様々な進路に対応できるのが特徴で、間口減になれば科目数が維持できなくなるため、間口維持は大きな問題である。

産業厚生常任委員会 調査報告

バイオマス計画について

〔十勝バイオマス産業都市構想〕

十勝では循環型の農業構築が推進され、既にバイオマス資源の約87%が活用されており、構想では10年後の利用率目標を94.5%としている。今後の課題として、原料収集の効率的な方策、ランニングコストの低コスト化、

原料生産・収集・運搬・製造・利用までの一体的なシステムの構築等があげられる。

本町では、平成20年「バイオマスタウン構想」、平成25年には「バイオマス活用推進計画」を策定している。

【鹿追町環境保全センター】

同センターは、バイ

オガスプラント・堆肥化プラント・コンポスト化プラントの3つの施設で構成されている。建設理由の一つとして、同町は観光も主要

産業として位置付けていることから、市街地付近の牧場からの臭気対策として計画が始まったとのことだった。稼働後、懸案だった臭気対策も達成され、プラントから排出される消化液をいかし化学肥料を削減した農作物生産等も期待されている。

課題は、ランニングコストの軽減であり、複数の畜産農家を利用組合をつくって稼働させる集合型施設のほか、

飼養頭数が少ない畜産農家でも採算が取れるプラントの建設開発が望まれている。

本町では、乳牛の飼養頭数が一農家あたり平均150頭程であり、低コストで建設できるプラント開発が、よりバイオマス計画の成功に近づけるものと考えられる。今後、バイオマスの取り組みに注視し、耕畜連携型循環農業の確立を目指していかなければならない。



鹿追町環境保全センターを視察